

ちよかわ
千代川遺跡(第29次)現地説明会資料

平成29年1月26日(木)
京都府教育委員会

所在地：亀岡市千代川町千原西斎ノ本
調査期間：平成28年8月22日～平成29年2月28日(予定)
調査面積：391 m²

1 はじめに

千代川遺跡は、亀岡盆地北部の大堰川右岸にある縄文時代から中世にかけての遺跡です。弥生時代中期の墓地や白鳳時代に創建された桑寺廃寺など、各時代とも多くの遺構、遺物が検出されています。特に、古代においては、正方位の地割が存在し、「国司牧」や「大門」等の役所に関する小字名も残ることなどから、丹波国の国府(国ごとにおかれた国司の役所)の推定地の一つとして注目されてきました。

国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」の実施に先立ち、平成27年度から京都府教育委員会が発掘調査を行っています。

2 調査の成果

今回は遺跡の北東に調査区を設定し調査を実施しました。調査区からは、掘立柱建物や溝などの遺構を多数検出しました。ここでは、代表的な遺構について時代順に説明します。

平安時代以前 調査区中央西よりで時期不明の土坑1と流路跡1・2を検出しました。流路跡はいずれも自然にできたものですが、土坑1は人工的に掘られたものです。

平安時代 建物1は、10本の柱で構成される掘立柱建物で、東西2間、南北3間の南北方向に長い建物です。建物2は、6本の柱を検出した掘立柱建物で、東西3間以上、南北2間の東西方向に長い建物です。建物2は調査区の西にさらに続いています。建物1・2とも主軸方向が正方位からわずかに東に振って建てられています。

中世 調査区の南西部分を中心に、鎌倉時代の柱穴や土坑を検出しました。溝22は、鎌倉時代から室町時代にかけての南北方向の溝で、地形に合わせて南側に向かって傾斜しています。

3 まとめ

千代川遺跡では、過去の調査で遺跡内の各所から古代の掘立柱建物が検出されています。今回の調査で新たに掘立柱建物を検出したことで、さらに広範囲に古代の建物が分布していたことが分かりました。これらの建物が丹波国府に関連するかについては、今後のさらなる調査検討が必要です。

最後になりましたが、調査に参加していただいた皆様、各方面から御協力いただいた皆様に、深く感謝いたします。

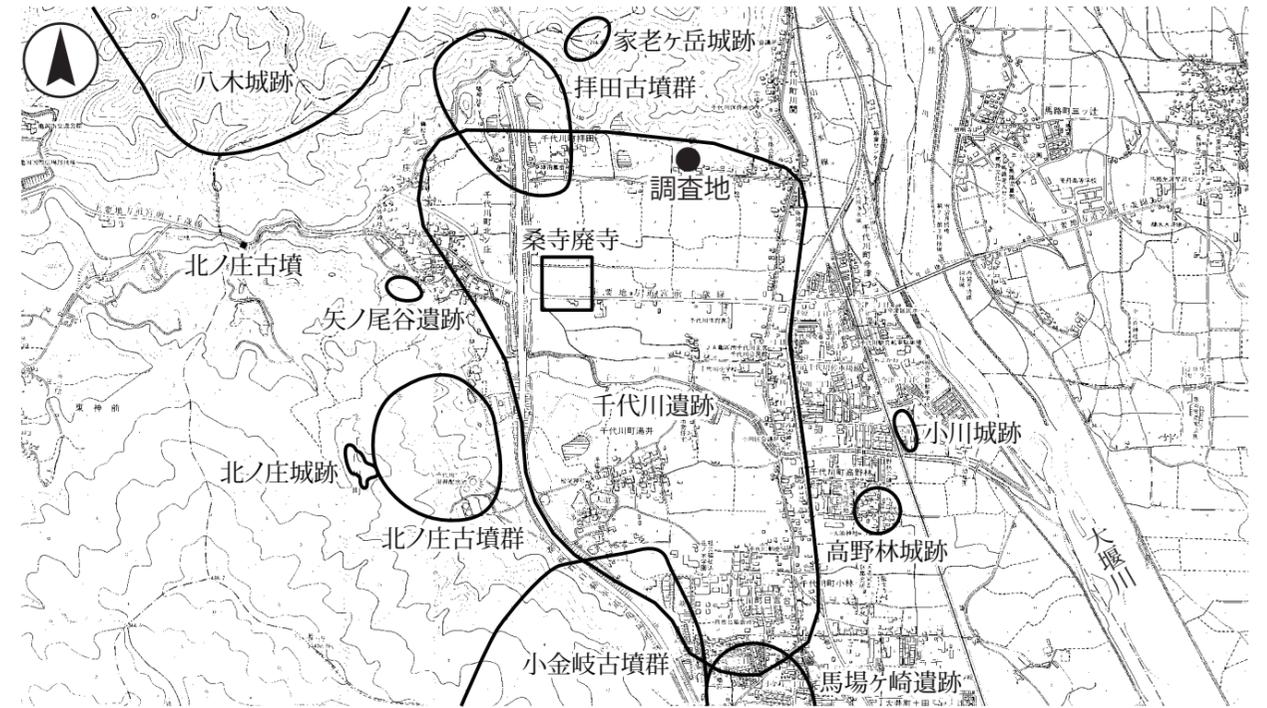


図1 調査地と周辺の遺跡 (S=1/25,000)

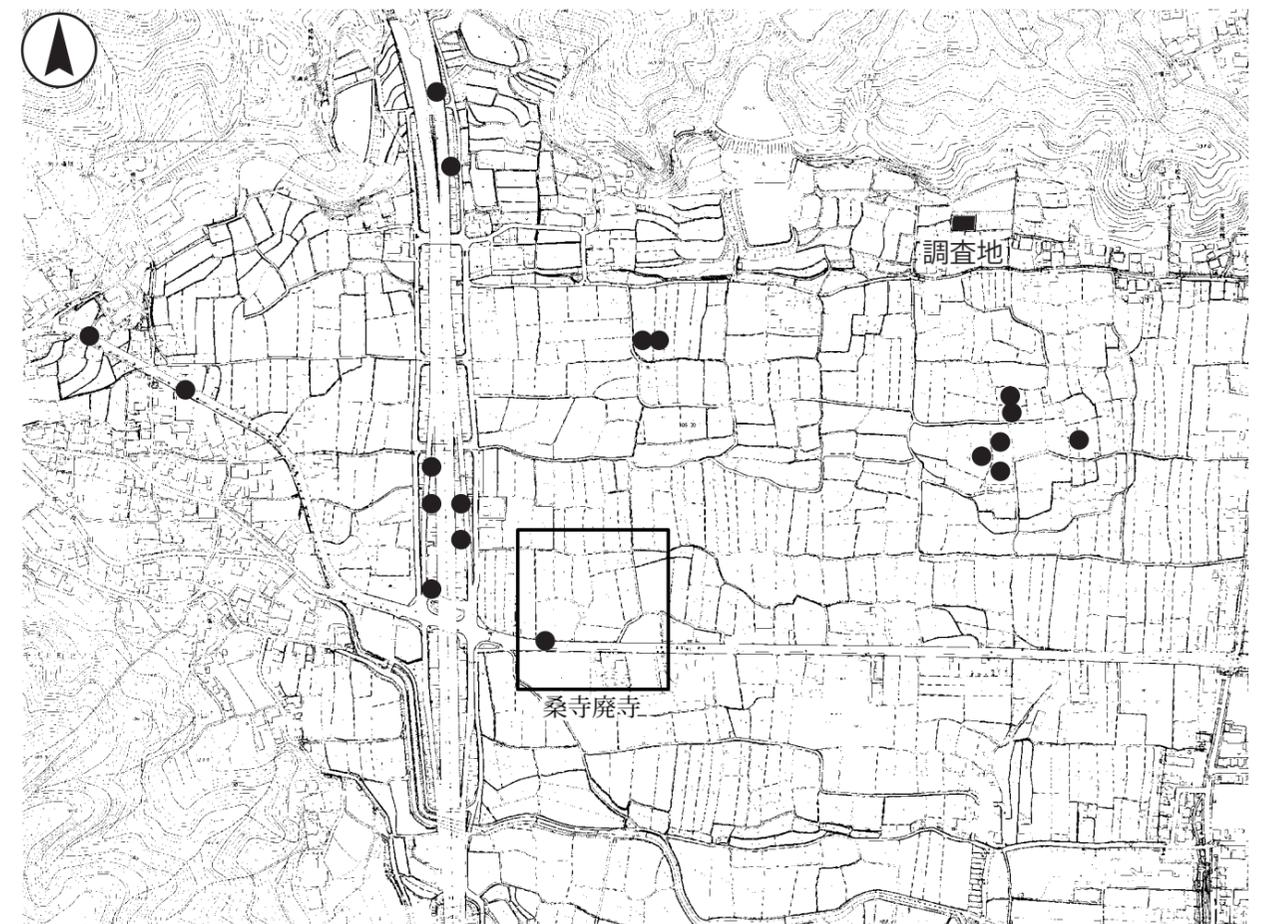


図2 千代川遺跡における古代の掘立柱建物検出地点 (S=1/8,000)



写真1 掘立柱建物復元イメージ (北西から)

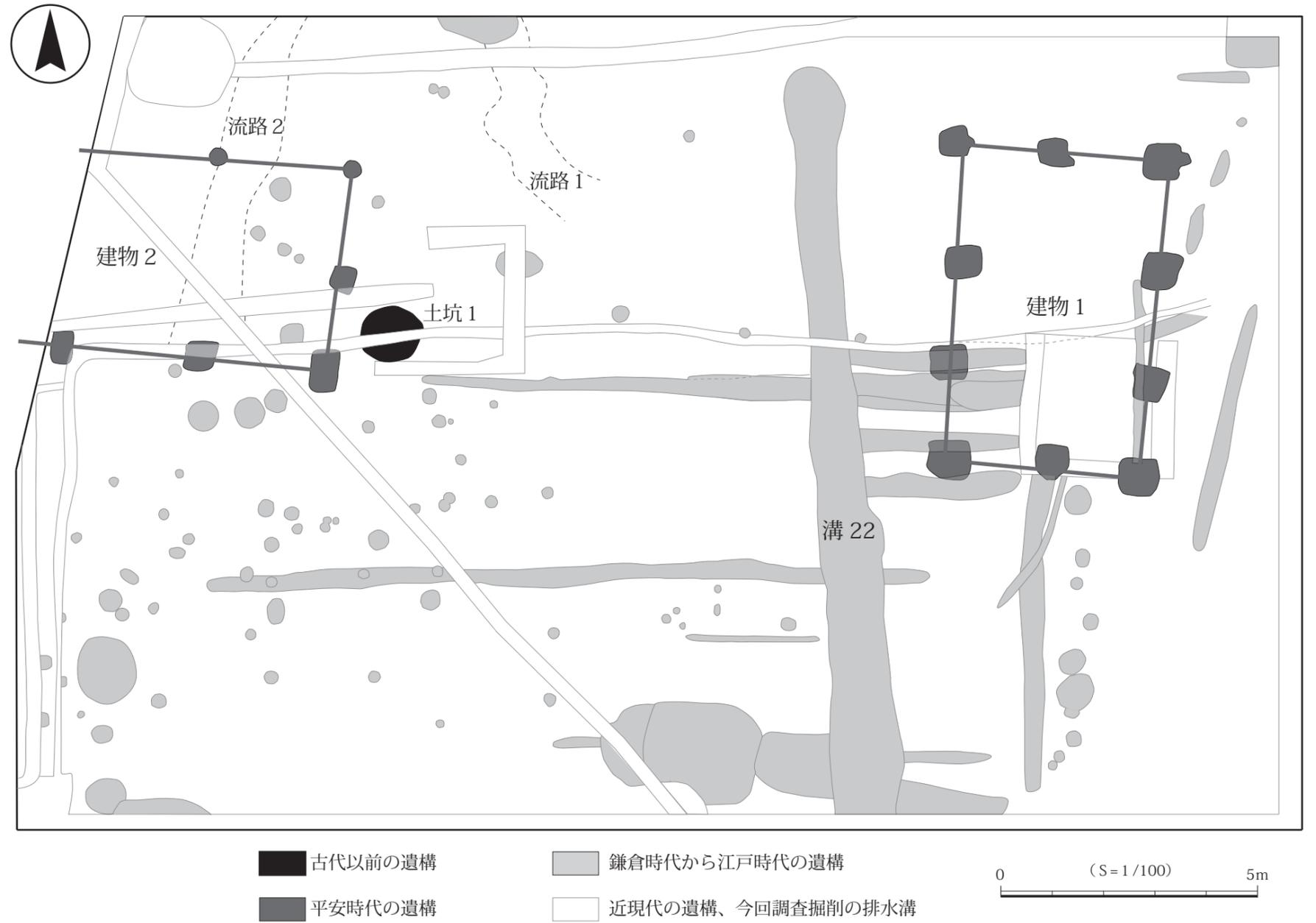


図3 調査区平面図

用語解説

○国府：律令制度のもとで諸国に置かれた国司の政庁や官衙の所在地。
丹波国の国府所在地は、亀岡市千代川町や亀岡市馬路町池尻説など複数ありますが、まだ確定されていません。

○掘立柱建物：地面を掘った穴に柱を据える建物。
古代の掘立柱建物は、柱を据える穴の平面が方形になるものが多い。

時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代 奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代 室町時代 戦国時代	江戸時代	明治・大正・昭和・平成
	古代			中世			近世	近現代	
開始年代	紀元前 800 ~ 紀元前 400 年	200 ~ 300 年	645(大化元) 年	794(延暦 13) 年	1185(文治元) 年	1338(延元 3) 年	1603(慶長 8) 年	1868(明治元) 年	

図4 遺構の時期と年表